

「消費増税の大罪」～民富みてこそ国も富む～ ー 36名の皆様が参加しました、ありがとうございましたー

（お話のポイント）

- なぜ消費税増税ありきなのか
（くらしと経済に大打撃）
- 「肩車型社会論」のまやかし
（社会保障の充実こそみんなの願い）
- 消費税増税に代わる税源について
（所得税のあり方、特別会計剰余金の活用など）
- 雇用環境の改善
（正社員化による貧困からの脱却こそ
負の連鎖を断ち切る道）
- 消費税法案の不条理
（社会保障の安定を計るはずの増税が
成長戦略・公共投資に流用）

消費税の法律自体は難しく、直接触れることはありませんが、消費税導入でその悪法と言える問題は生活の中で強く実感できます。さらに増税になれば死活問題になっていく層が増えます。

⇒最終消費者（物を買う立場）にとっては消費税増税が生活必需品の物価にはね返り、低所得層では大きな負担になります。

⇒事業者（物をつくる、販売する立場）では、価格に転嫁できない中小企業・自営業者は大打撃で倒産にまで追い込まれることにも。一方輸出大企業は輸出還付金制度で大きなメリットがあります。

⇒まやかし宣伝をどう見たらいいのか？
肩車社会論では、現役世代の負担が増えるから社会保障費を消費税で支える。
国際比較で消費税の税率は低いなどの宣伝が氾濫して本当の事実を覆い隠しています。

⇒消費税増税の経済全体への影響はどうなるのか？失われた10年と言われる中で非正規雇用が増大し、賃金・雇用が改悪され貧困と格差が広がる中で需要を支える消費力がさらに制限されていく深刻な問題をどう解決するのか。

⇒消費税増税に頼らない経済活性化の解決策はどこにあるのか。

など改めて消費税増税が「大罪」というべき事実を数字などで論証し、解説していただきました。シリーズでポイントをお知らせしていきます。



（参加された皆様の感想から）

☆消費税増税についての基本的・根元の問題について政府発表とは違う角度からの解説がなされており、マスコミ報道だけを情報源としていると「洗脳」されてしまう事に気がついた。
雇用と若者労働力が活性しないと民富まず国の問題も解決しないことを国民レベルの意識に作りあげていく努力が大切であると思う。国の有り様についての議論が肝要である。

☆「消費増税の大罪」具体的で豊富な資料に基づく鋭い告発には感銘を受けると同時にショックを受けました。日頃の勉強不足を反省させられました。

☆消費税が亡国の税がよくわかりました。今日のデータ、「消費増税の大罪」を活用し、増税をストップさせる世論づくりに生かしたいと思います。先生の一層のご活躍を祈念します。

☆「肩車社会論」への反論はよくわかりました。私は6人兄弟ですが、私の父母が6人の子供を育て上げたことを考えると、現代が決して恵まれているとは思えません。最近では特に青年層の貧困化が進んでいると思いますが、働く場所を確保する、安定した雇用を当然とする社会を作ることが強く求められていると思います。

☆失業者、非正規雇用人口が増えていることが、消費税増税問題の核にあることを改めて実感した。

☆消費税問題はこの国のあり方を問う問題であることが、具体的なデータをもとに説明いただき、よくわかりました。政府、国が目先の財源集めに走る愚かさが嘆かわしい。